

第3章 貿易統計による中国・日本の輸出競争力分析

はじめに

現在、東アジア諸国¹においても二国間 FTA・多国間 FTA（EPA）交渉が活発化している中で、GDP で東アジアのおよそ 8 割をしめる日中間の貿易・投資構造等の実態把握も重要な要素になってきている。一般に FTA を考えるにあたっての基本的関心事項が関税引き下げ効果であるため、対象地域における財の貿易に関する実態把握・分析を予め実施すると貿易構造上の特徴や問題点などの理解がしやすい。浦田[2004]、アジアクラブ[2003]、丸屋・石川[2001]、木村・丸屋・石川[2002]などでは、対象地域に関する貿易マトリクスや貿易特化係数を用いて輸出入の特徴を把握している。

本章では、より緊密化する日中間貿易の特徴を両国の輸出競争力の観点から整理し、日本の中国への輸出額が大きい品目が本当に中国市場で他国と比べ輸出競争力が強いのか、また、中国の対世界輸出競争力が強い品目が日本でも同様であるのかを検討する。そして、日中間貿易が東アジアにおける現在の FTA の進捗との関係、特に日本より交渉が先行する中国と ASEAN との FTA によりどのような影響があるかを推論する。具体的には、(1)日本・中国間の輸出入を貿易統計 HS 分類の「部」レベル（「部」の数は 21）で比較し、両国間の貿易構造を把握する。(2)中国にとって日本からの輸入額が大きい上位 10 品目を HS 4 桁レベルで抽出し、中国を輸出市場と捉えたときの日本の他国²との競争関係をそれらの品目について吟味する。(3)中国の主要輸出品 100 品目（HS 4 桁）の対世界輸出競争力を世界市場シェア、比較優位分析（RCA 指数分析）及び貿易特化係数により考察し、これら 100 品目の日本の中国からの輸入状況と比較して、中国製品の世界での競争力と日

¹ 本稿では、東アジア＝アセアン 10＋日本・中国・韓国・台湾・香港を想定するが、データの利用可能性上、統計ではアセアン＝先行アセアン 5 国としている。

² 「他国」とは上の脚注 1 で示した中国、韓国、台湾、香港、アセアン 5（一地域）に加えて、EU25（一地域）である。

本での競争力に類似点・相違点を見出す。その結果、日中貿易を中心とした視点で東アジアにおける FTA の効果を検討する。

本章では、「輸出」競争力と称しながら「輸入」統計を利用した部分が多い。それは、輸入統計が定義上「原産地主義」に基づくことになっているので輸入された商品の原産地側（輸出側）の競争力が、輸出統計の「仕向け先」データよりの確に捉えられるからである。また、輸入統計を用いることにより特に「中国の中国からの輸入」統計の取り扱いの問題に直面する。それは、原産地中国から香港へ仕向けられ、再輸出として中国（の例えば上海）に輸出されるなどと考えることができようが、統計の扱いの問題であり必ずしも明確ではない。輸出統計に関しても同様に香港経由の問題が残る。こうした整合性の問題については、石川[2004]などがある。本章では、「中国の中国からの輸入」を原産地中国品の香港などの再輸出を経由した中国の輸入として取り扱っている。

第 1 節 日中間貿易構造と輸出特化係数

日中間貿易構造を HS の「部」レベルで比較したものが表 1 である。日本が中国かという原産地を明確にするためにそれぞれの国の輸入統計を用いている。³

まず、中国において日本からの輸入品構成比(金額ベース)を見ると、「機械類、電気機器等」(第 16 部)が 54%強と大きなシェアを占め、「卑金属製品」(第 15 部)9.8%、「光学・精密機器等」(第 18 部) 8.4%、「化学工業品」(第 6 部)7.3%、「輸送機器関連」(第 17 部)5.8%と続いている。一方、日本における中国からの輸入品構成比(同)は、「機械類、電気機器等」32.3%、続いて「紡績用繊維・製品等」(第 11 部) 23.2%となっており、そのほかには額において特出すべき品目(「部」)はない。日中間貿易において「機械類、電気機器等」

³ 本章ではすべてのデータソースが World Trade Atlas データベースからであり、データ検索作業等では、新領域研究センターの佐藤公美子氏にご協力をいただいた。

は両国間双方で大きい、全般的にいつて中国の輸入は機械・化学関連製品に集中しておりそのほかのウエイトは相対的に小さい。一方、日本の輸入は「紡績用繊維・製品等」にも輸入が集中しているが、全般的な傾向として「雑品」、「食料品」(第4部)などを中心に中国からの輸入が数パーセントずつほとんどの品目に一様に存在することが中国にとっての輸入と対照的である。

こうした点に関し輸出特化係数を用いてより特徴的に分析してみる。

まず、一般に貿易特化係数(Trade Specialization Coefficient = TSC)は自国と相手国間の輸出入統計を用いて、 $(\text{輸出} - \text{輸入}) / (\text{輸出} + \text{輸入})$ で定義され、「この値が1に近いほど自国の相手国に対する輸出力が強く、値が0のとき両国の輸出力が拮抗し、さらに-1に近づくほど自国の相手国に対する輸出力が弱い」と大筋の解釈ができよう。(定義式の点から言えばFOB評価の輸出統計とCIF評価の輸入統計の扱いなど注意すべき点はある。)ここでは(表1)、日本の対中国貿易特化係数として計算されている(「中国の日本からの輸入」を「日本の中国への輸出」として扱う)。

2003年に注目すると日本の対中国貿易特化係数が正の値をとる品目は、「輸送機械関連」(TSC = 0.60)、「化学工業品」(0.45)、「プラスチック・ゴム等」(0.44)、「卑金属製品」(0.39)、「光学・精密器械等」(0.36)、「木製品等」(第10部) (0.30)、および「機械類・電気機器等」(0.24)の7品目であり、特に輸出力が強いといえるのは、係数で見ると「輸送機械関連」のみである。輸出も多いが輸入も多い「機械類・電気機器等」は輸出力が非常に優位とは必ずしもいえない。(HSの「部」レベルという荒い分類で見ているので、総体としての理解である。)

この係数のマイナスの値は、中国の日本に対する輸出特化度として読むことができる。上述した7品目以外の14品目がマイナスの値であるわけだが、その絶対値が1に近い品目が多いことが特徴的である。日本の対中輸出特化度の最高値は「輸送機械等」の0.60であったが、中国の輸出特化係数ではその0.60を超えるものは10品目も存在する。それらは、動物性生産品(第1,2部)、

表1 日本・中国間輸出入比較(両国の輸入統計による)

(その1/2)		1999年					2000年				
「部」番号	HS分類「部」名称	中国←日本		日本←中国		日本貿易 特化係数	中国←日本		日本←中国		日本貿易 特化係数
		金額	シェア	金額	シェア		金額	シェア	金額	シェア	
01	動物及び動物性生産品	190.39	0.56%	1649.51	3.82%	-0.79	142.63	0.34%	1846.54	3.35%	-0.86
02	植物性生産品	23.83	0.07%	1858.76	4.30%	-0.97	31.68	0.08%	1931.24	3.51%	-0.97
03	動物性・植物性の油脂等	2.67	0.01%	7.93	0.02%	-0.50	3.32	0.01%	9.28	0.02%	-0.47
04	調製食料品・飲料・アルコール・たばこ	83.28	0.25%	2225.33	5.15%	-0.93	104.71	0.25%	2633.97	4.78%	-0.92
05	鉱物性生産品	290.68	0.86%	1753.64	4.06%	-0.72	310.92	0.75%	2617.78	4.75%	-0.79
06	化学工業の生産品	2531.96	7.50%	1257.05	2.91%	0.34	3238.90	7.80%	1505.16	2.73%	0.37
07	プラスチック・ゴム・ゴム製品	2673.04	7.91%	771.03	1.79%	0.55	2941.51	7.08%	1013.42	1.84%	0.49
08	皮革・毛皮・これらの製品(ハンドバッグ等)	63.72	0.19%	1247.43	2.89%	-0.90	69.07	0.17%	1625.1	2.95%	-0.92
09	木材・木炭・コルク・これらの製品	6.85	0.02%	979.86	2.27%	-0.99	9.09	0.02%	1156.59	2.10%	-0.98
10	木材パルプ、その他のパルプ、紙製品	638.02	1.89%	128.6	0.30%	0.66	545.33	1.31%	219.31	0.40%	0.43
11	繊維用繊維・その製品	2926.88	8.67%	13149.61	30.45%	-0.64	3481.48	8.39%	16418.9	29.80%	-0.65
12	履き物、帽子、傘、羽毛製品、造花等	28.10	0.08%	2104.86	4.87%	-0.97	33.80	0.08%	2349.71	4.27%	-0.97
13	石、セメント、陶磁製品、ガラス・その製品	404.82	1.20%	812.9	1.88%	-0.34	622.94	1.50%	974.49	1.77%	-0.22
14	貴石・貴金属・その製品、身辺用模造細工類	31.26	0.09%	90.6	0.21%	-0.49	29.34	0.07%	120.34	0.22%	-0.61
15	卑金属・その製品	4056.00	12.01%	1607.13	3.72%	0.43	4603.65	11.09%	2256.21	4.10%	0.34
16	機械類、電気機器、録音・再生機器・テレビ、これらの部分	16504.12	48.86%	8728.87	20.22%	0.31	20822.20	50.15%	12238.01	22.21%	0.26
17	車両・航空機、船舶、輸送機器関連品	967.09	2.86%	440.86	1.02%	0.37	1469.25	3.54%	618.28	1.12%	0.41
18	光学機器、精密機器、医療用機器等	2167.14	6.42%	1502.8	3.48%	0.18	2810.36	6.77%	1867.49	3.39%	0.20
19	武器等	0.00	0.00%	0.05	0.00%	-0.99	0.00	0.00%	0.19	0.00%	-0.99
20	雑品	180.49	0.53%	2540.4	5.88%	-0.87	241.34	0.58%	3229.27	5.86%	-0.86
21	美術品、収集品及び骨董	0.08	0.00%	24.96	0.06%	-0.99	0.06	0.00%	15.92	0.03%	-0.99
	合計額	33770.42	100.0%	42882.18	100.0%	-0.12	41511.59	100.0%	54647.2	100.0%	-0.14

World Trade Atlas より筆者作成 (金額は百万米ドル、%計は計算誤差により加算計と一致しない。)

「中国←日本」は中国の日本からの輸入。逆も同様。原産地を特定するため両国の輸入統計を比較しているため、各国で公表されている貿易収支等とは一致しない。本文では2003年について焦点を当てている。

(表1 その2 / 2)

「部」番号	2001年					2002年					2003年				
	中国←日本		日本←中国		日本貿易 特化係数	中国←日本		日本←中国		日本貿易 特化係数	中国←日本		日本←中国		日本貿易 特化係数
	金額	シェア	金額	シェア		金額	シェア	金額	シェア		金額	シェア	金額	シェア	
01	117.55	0.27%	1666.27	2.88%	-0.87	101.89	0.19%	1596.21	2.58%	-0.88	122.83	0.17%	1551.36	2.05%	-0.85
02	20.48	0.05%	1967.13	3.40%	-0.98	22.20	0.04%	1698.43	2.74%	-0.97	26.31	0.04%	1930.96	2.55%	-0.97
03	3.20	0.01%	6.79	0.01%	-0.36	3.82	0.01%	5.74	0.01%	-0.20	4.15	0.01%	7.06	0.01%	-0.26
04	85.34	0.20%	2775.29	4.80%	-0.94	84.80	0.16%	3027.54	4.89%	-0.95	86.64	0.12%	3156.69	4.18%	-0.95
05	385.38	0.90%	2429.96	4.20%	-0.73	473.51	0.89%	2408.9	3.89%	-0.67	617.91	0.83%	2977.22	3.94%	-0.66
06	3206.23	7.49%	1564.14	2.71%	0.34	3961.72	7.41%	1659.57	2.68%	0.41	5442.14	7.33%	2087.57	2.76%	0.45
07	2822.61	6.59%	1121.72	1.94%	0.43	3420.50	6.39%	1326.7	2.14%	0.44	4277.78	5.76%	1651.39	2.18%	0.44
08	107.62	0.25%	1772.64	3.07%	-0.89	82.76	0.15%	1656.71	2.68%	-0.90	83.81	0.11%	1793.9	2.37%	-0.91
09	11.19	0.03%	1205.05	2.09%	-0.98	15.61	0.03%	1291.66	2.09%	-0.98	30.14	0.04%	1465.28	1.94%	-0.96
10	528.05	1.23%	235.07	0.41%	0.38	645.97	1.21%	270.32	0.44%	0.41	764.76	1.03%	407.82	0.54%	0.30
11	3352.42	7.83%	16426.79	28.42%	-0.66	3168.08	5.92%	15483.55	25.02%	-0.66	3465.65	4.67%	17555.11	23.23%	-0.67
12	35.99	0.08%	2427.25	4.20%	-0.97	34.22	0.06%	2359.73	3.81%	-0.97	36.26	0.05%	2527.53	3.34%	-0.97
13	610.24	1.43%	1052.05	1.82%	-0.27	650.93	1.22%	1161.85	1.88%	-0.28	796.25	1.07%	1278.49	1.69%	-0.23
14	34.63	0.08%	147.54	0.26%	-0.62	44.12	0.08%	132.26	0.21%	-0.50	78.81	0.11%	171.88	0.23%	-0.37
15	4764.67	11.13%	2043.1	3.54%	0.40	5930.31	11.09%	2232.8	3.61%	0.45	7253.00	9.77%	3197.46	4.23%	0.39
16	22006.12	51.41%	14090.71	24.38%	0.22	27920.22	52.20%	18061.47	29.19%	0.21	40113.59	54.06%	24546.5	32.48%	0.24
17	1668.72	3.90%	717.04	1.24%	0.40	2946.99	5.51%	888.3	1.44%	0.54	4323.49	5.83%	1074.58	1.42%	0.60
18	2808.69	6.56%	2010.47	3.48%	0.17	3750.43	7.01%	2174.59	3.51%	0.27	6236.47	8.40%	2943.73	3.89%	0.36
19	0.01	0.00%	0.16	0.00%	-0.89	0.01	0.00%	0.17	0.00%	-0.93	0.03	0.00%	0.11	0.00%	-0.53
20	229.32	0.54%	3641.67	6.30%	-0.88	216.66	0.41%	3996.42	6.46%	-0.90	386.22	0.52%	4669.2	6.18%	-0.85
21	0.09	0.00%	15.73	0.03%	-0.99	0.19	0.00%	13.11	0.02%	-0.97	0.07	0.00%	5.71	0.01%	-0.97
	42798.54	100.0%	57316.57	100.0%	-0.15	53474.94	100.0%	61446.03	100.0%	-0.07	74146.33	100.0%	74999.55	100.0%	-0.01

鉱物性生産品(第5部)などの一次産品類、及び調整食料品、皮革等製品(第8部)、木材・木炭等(第9部)、紡織用繊維・製品、履物(第12部)などの軽工業品類に分類される。したがって、一次産品類及び軽工業品については、中国の日本に対する輸出特化度が非常に高く、機械・化学関係の製造業品については日本の中国に対する輸出特化度は比較的高いといえるものの、突出していると考えられるのは輸送機器関連品目であることが理解できよう。

第2節 中国市場における日本の輸出競争力

前節において日中間貿易の構造と両国間の輸出特化度を調べた結果、中国への輸出金額の大きい品目は「機械類・電気機器等」(第16部)であり、日本の輸出特化度が大きいのは「輸送機械関連」(第17部)であった。

日中両国間のための貿易をとりあげると、例えば上に挙げた2つの品目が中国市場でどのような位置にあるのか、すなわち中国市場において他国に対し輸出競争力があるのか否かについては把握できない。そこで、本節では、中国が日本から輸入している上位10品目について、HS4桁レベルでその中国市場での日本の輸出競争力の状況を観察する。同時に、この観察により、対象10品目のアジアにおける生産基地と中国の関係も把握することができる。

2003年における中国の日本からの主要輸入10品目(HS4桁)は、以下のとおりである。

順位	HS4桁 (「部」)	品目名(例示)	輸入額
(1)	8542(「16」)	集積回路	8168.7
(2)	8541(「16」)	半導体、ダイオード	2429.0
(3)	8479(「16」)	その他の機械類	2407.2
(4)	9013(「18」)	液晶デバイス、レーザー	2350.0

(5)	8473 (「16」)	コンピュータ部分品、付属品	2089.8
(6)	8529 (「16」)	テレビ・ラジオの部分品	1983.1
(7)	8708 (「17」)	自動車の部分品、アクセサリ	1843.7
(8)	8703 (「17」)	乗用自動車	1641.6
(9)	8525 (「16」)	送信機器、テレビ・ビデオカメラ	1415.9
(10)	7210 (「15」)	鉄等のフラットロール品	1144.9

(注) 「部」は表 1 を参照のこと。輸入額は 100 万米ドル。

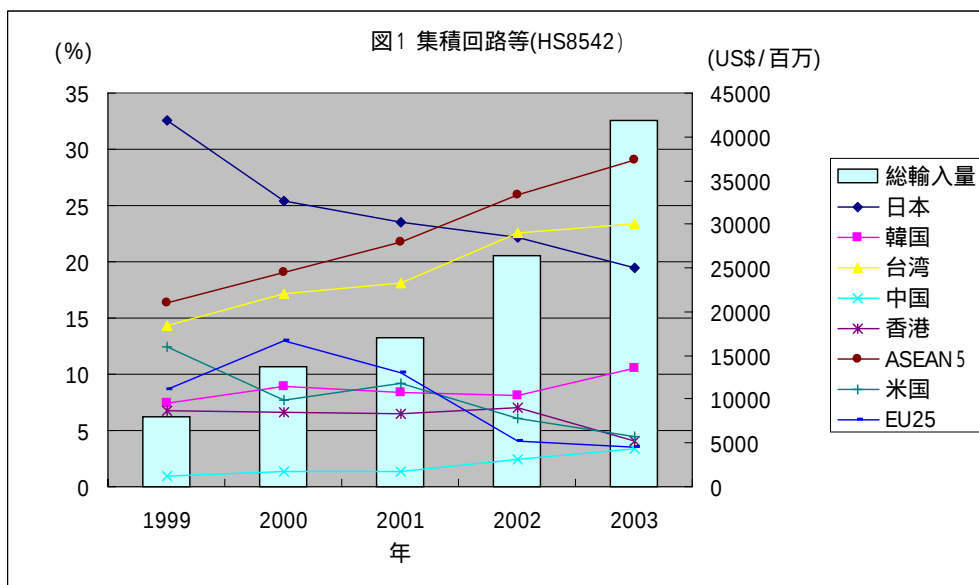
以下、上の 10 品目の各々について観測期間 (1999 年から 2003 年までの 5 年間) における変化を次の点に関して整理する。 中国市場が 5 年間でどれだけ拡大したか(対象品目に関する中国の輸入の拡大の程度)、 日本からの輸入シェア(日本の中国輸出市場占有率)の変化、及び輸入相手国全体の位置関係の変化(輸出市場占有率の変化)、そして最後に簡単な まとめを行う。

(1) HS8542=「集積回路及び超小型組み立てモノシリックデジタル集積回路」(図 1)⁴(原料はシリコンだけ。すべてをシリコン基板上に作る。安価。大量生産可能。家電向け)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 5 倍 (79 億ドルから 419 億ドル) になった。

日本からの輸入シェアは 1999 年には全体の 33% で、 2 位のアセアン 5 (16%) の 2 倍程度あったが、その後漸減し 2002 年にはアセアン 5、台湾についで 3 位に転落し、2003 年には 20% をも下回った。アセアン 5 と台湾のシェアは 1999 年以降漸増し、2003 年にはそれぞれ 29%、23% となった。米国、EU のシェアは 1999 年には 10% 前後を占めていたが、現在では 5 % にも達していない。その分、アセアン 5 (特にフィリピン、マレーシア)、台湾、韓国の伸びが大きかった。

⁴ 各品目に対する図のバックデータも用いて以下の整理(記述)を行うが、バックデータ自体は煩雑を防ぐため掲載していない。

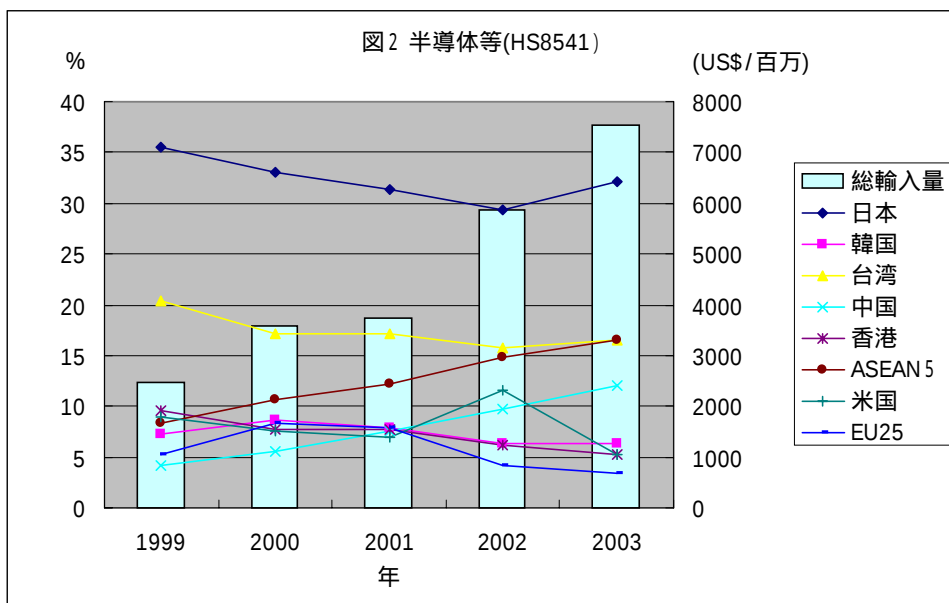


現在、日本、アセアン 5 及び台湾で中国輸出市場の約 72%を占めている。
また、この 5 年間で市場の拡大が 5 倍であるのに対し、アセアン 5 およ
び台湾からの輸入額はそれぞれ 9.4 倍、7.6 倍と大きく伸びたが、日本から
の輸入額の伸びは 3.2 倍と市場の拡大に見合う伸びを示さなかった。日
本は、台湾及びアセアン 5 との競争関係にある。

(2) HS8541=「半導体、発光ダイオード」(図 2)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 3 倍(25 億ドルから 75 億ドル)にな
った。

日本のシェアがおおむね 30%強で中国輸出市場 1 位を保っている(金額で
は 8.8 億ドルから 24 億ドルと 2.8 倍でほぼ市場の拡大と同程度の伸びであ
る)。1999 年当時は台湾が 20%であったが、その後シェア 2 位を保ってい
るものの漸減して 17%程度になった。アセアン 5 は 99 年当時 8%程度で



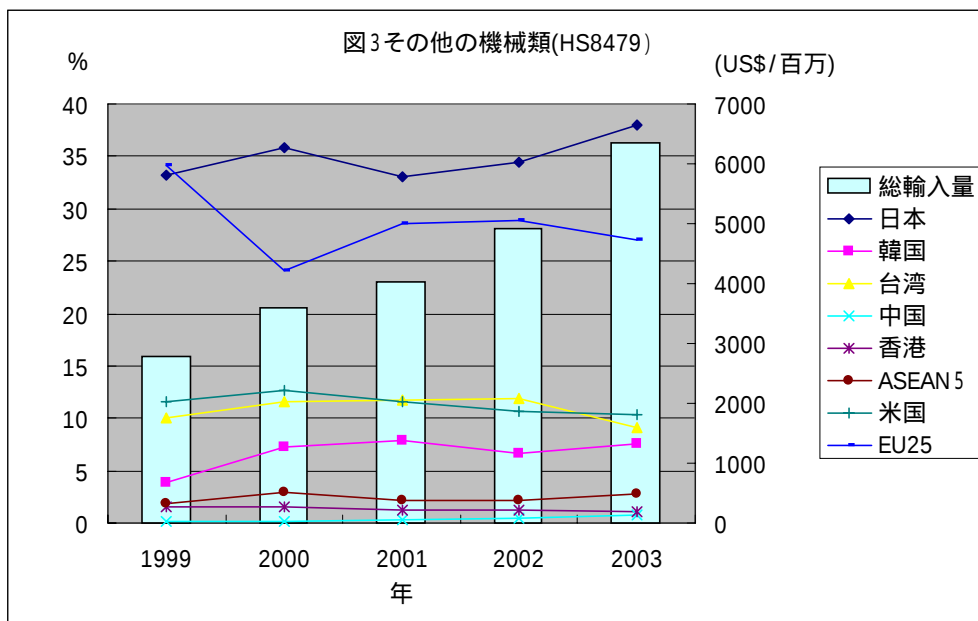
あったが単調増加し、2003年には台湾に並ぶようになった。アセアン5からの輸入額は6.1倍（2億ドルから12億ドル）に拡大し、台湾は2.5倍程度（5億ドルから13億ドル）の伸びにとどまった。

現在のところ日本の輸出競争力が強く、台湾、アセアン5、中国が2位グループで競争関係にある。

(3) HS8479 = 「その他の機械類」(図3)

中国のこの品目の輸入はこの間で約2.3倍（28億ドルから63億ドル）になった。

日本のシェアがおおむね35%前後で推移し、2000年以降中国輸出市場1位を保っている(金額では9億ドルから24億ドルと2.6倍で市場の拡大をやや上回る伸びである)。1999年にはEUが34%で首位であったが、その後おおむね27~28%を推移し、日本につぎシェア2位を保っている。日本とEUで市場の65%を占めており、第2グループとして米国(10%)、台湾



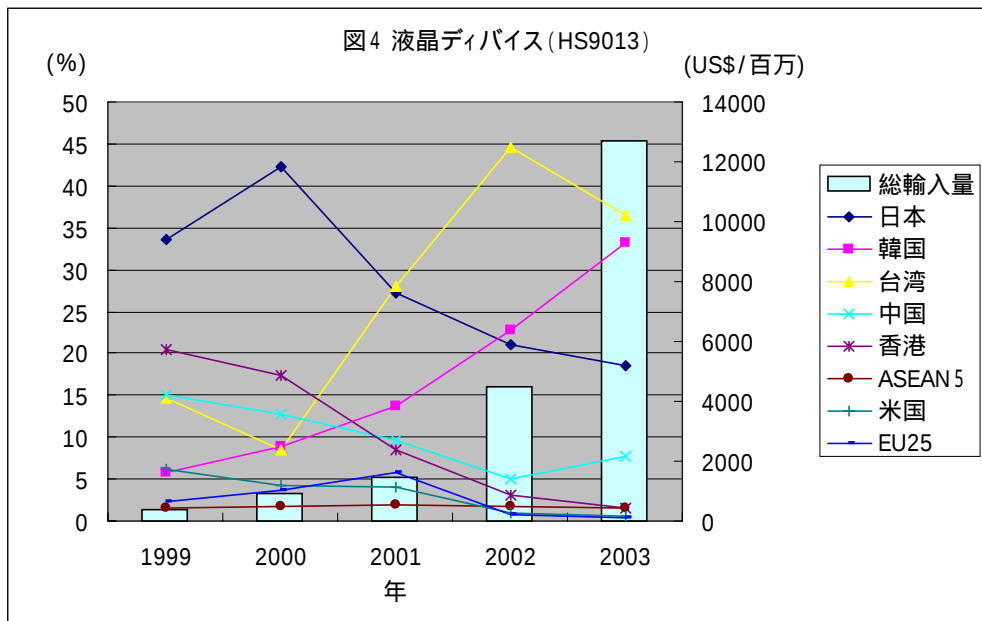
(9.1%)、韓国 (7.6%) の競争となっている。この分野における各国のシェアランクは、観察対象の 5 年間で多少の変動はあるものの全体として大きな変化はない。

現在のところ日本それに EU の輸出競争力が強く、米国、台湾、韓国が 2 位グループで競争関係にある。

(4) HS9013 = 「液晶デバイス、レーザー」(図 4)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 32 倍 (4 億ドルから 127 億ドル) になった。

日本のシェアが 2000 年の 42%をピークにその後 1 位から陥落し、急減して 2003 年には 19%で 3 位になった。一方、日本とちょうど逆行するように台湾、韓国の成長が著しく、2001 年にはそれぞれ 28%、14%で 1, 2 位

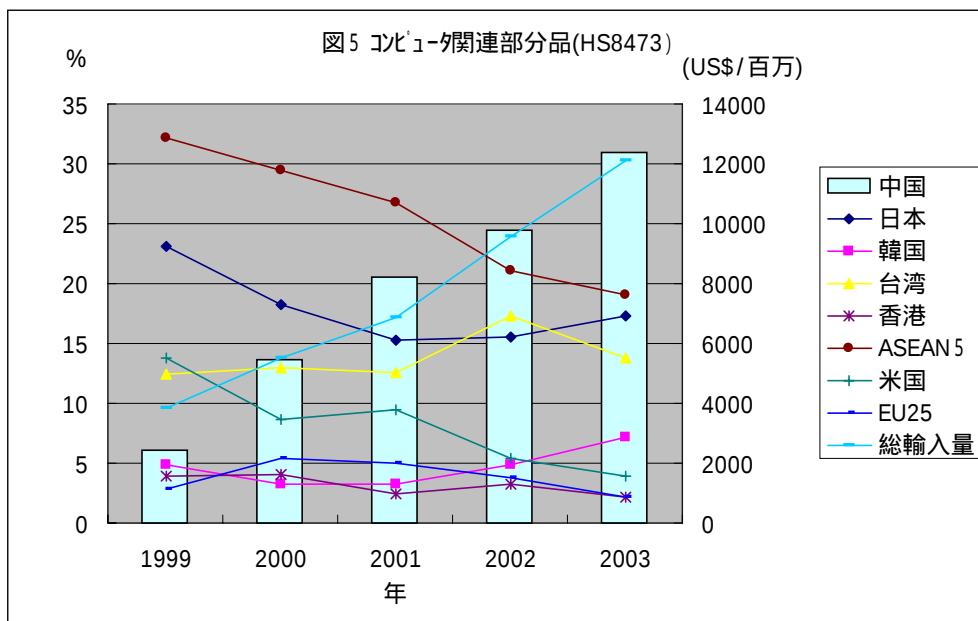


となり、2003 年には 36%、33%となった。台湾、韓国の伸びは市場全体の拡大(32 倍)を大きく上回り、それぞれ 79 倍、186 倍となった。
現在、台湾、韓国、日本の輸出シェア競争となっている。

(5) HS8473 = 「コンピュータ関連部分品、付属品」(図 5)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 3.2 倍 (38 億ドルから 121 億ドル) になった。

日本のシェアが 1999 年には 23%であったが、その後 15～18%で推移している。アセアン 5 のシェアの減少は著しく、1999 年時には 32%で 1 位であったものが、2003 年には 19%まで落ちこんだ。(特にシンガポールの落ち込みが大きく、絶対額でも 5 年間で 0.6 倍となった。一方、マレーシアは 6.0 倍となり、この間シンガポールからマレーシアへの生産拠点の移動があった



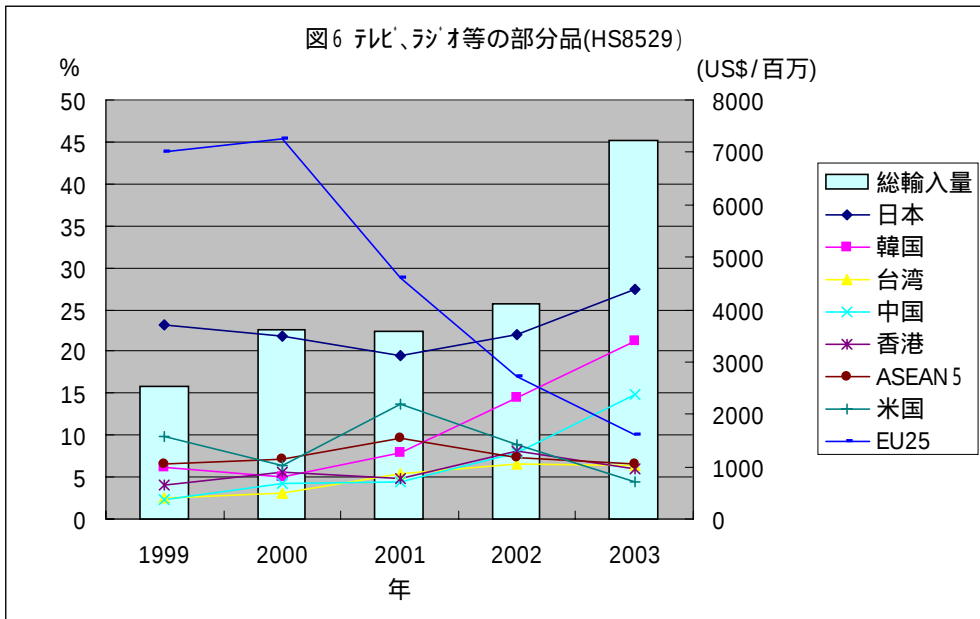
ことが推察される。) 一方、原産地中国⁵の製品が中継貿易を経て輸入される分は急増した。99 年時には 6 %程度であったが、2003 年には 31%に達し、シェア 1 位となっている。中継貿易による原産地中国製品の輸入が 16 倍と大きく伸びた。台湾のシェアは概ね 10%台で推移しているが、米国からの輸入は減少し 4 %程度と小さなシェアになった。

この品目の中国輸出市場での競争は、原産地中国、アセアン 5、日本、台湾が中心である。

(6) HS8529 = 「テレビ、ラジオ等の部分品」(図 6)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 2.8 倍(25 億ドルから 72 億ドル)になった。

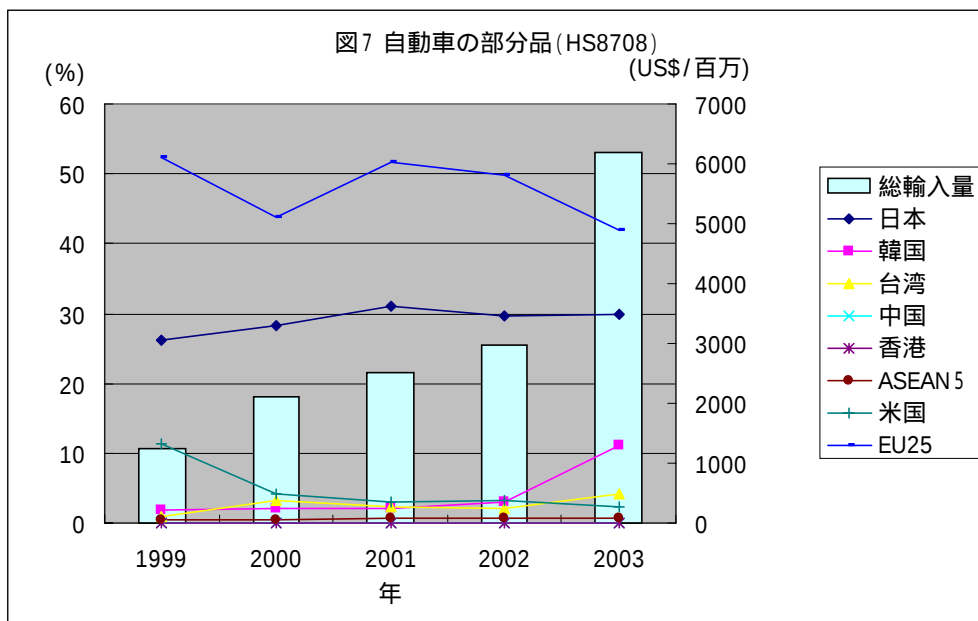
⁵ 中国の輸入統計を利用するため、中継貿易を経ての原産地中国製品の中国輸入が統計上現れる。この解釈については、統計の取り方の問題も考えられるが、本稿では、原産地中国の製品の中国輸入とした。



日本のシェアは一端漸減した後増加に転じ、2002 年からシェア 1 位となった。大きな変化は EU からの輸入の激減である。当初 40% 超を占めていたシェアが 2000 年をピークとして急減少し、2003 年には 10% までに落ちこんだ。これに変わって、大きな増大を見せたのが韓国及び原産地中国製品であり、2003 年にはそれぞれ 2 位、3 位を占めるようになった(輸入額はそれぞれ 9.8 倍、17.7 倍の伸びで市場全体の伸びより大きい)。この品目の中国輸出市場での競争は、日本、原産地中国、及び韓国が中心であり、EU がこれに次いでいる状態である。

(7) HS8708 = 「自動車の部分品、アクセサリ」(図 7)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 5.0 倍(12 億ドルから 62 億ドル)になった。

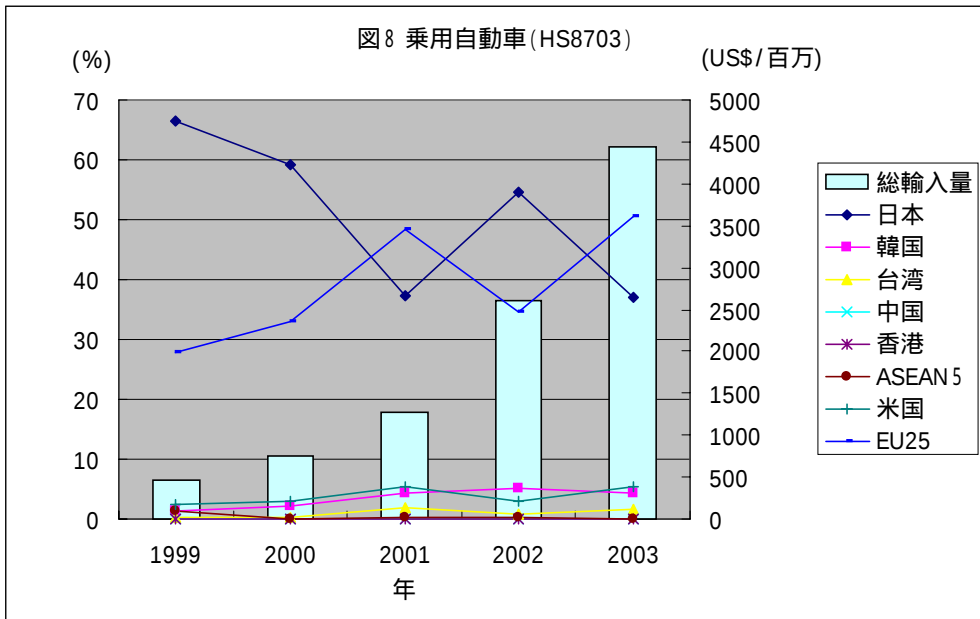


日本のシェアはほぼ 30%弱で推移し、2 位の位置も変わりがない。E U のシェアが圧倒的に大きく、50%前後を占める。しかしながら 2003 年にはシェア 1 位に変わりがないが 42%へ大きな減少が見られた。E U のシェアを食ったのが、韓国で 11%と前年までの数%を大きく上回った。E U (1 位)と日本 (2 位)で 70%～80%を占める状態である。韓国がシェアを拡大しようやく 2 桁台に乗せたところである。

(8) HS8703 = 「乗用自動車」(図 8)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 9.7 倍 (4.6 億ドルから 44 億ドル) になった。

日本のシェアは 2000 年まで 60%程度あったが、その後 37%、55%、37%と減衰振動的な動きを示している。一方、E U は 2000 年まで 30%程度しかなかったが、その後 49%、35%、51%と拡大振動的な動きとなった。また、日本の伸び (5.4 倍) に比して、E U の伸び (17.7 倍) は遙かに大きい。

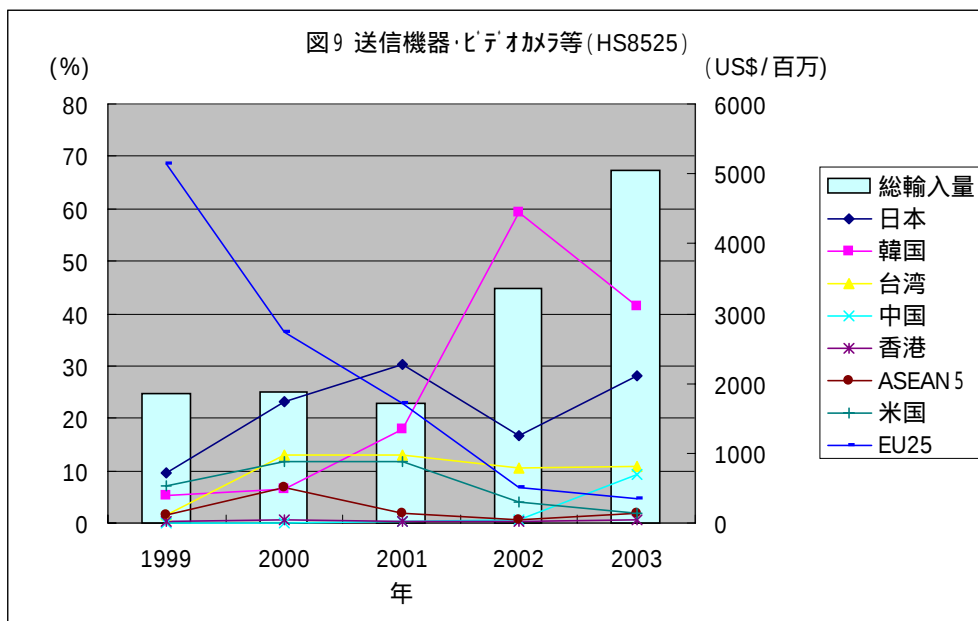


この品目では、米国、韓国がそれぞれ数%を占めるものの、日本とEUで90%近くあり支配的である。

(9) HS8525 = 「送信機器、テレビカメラ、ビデオカメラ」(図 9)

中国のこの品目の輸入はこの間で約 2.7 倍(18.5 億ドルから 50.5 億ドル)になった。

日本は 99 年当時 2 桁のシェアを持たなかったが、2000 年に急増し上下変動はあるものの 20% 台を持つようになった。一方、EU は 99 年当時 69% のシェアを有していたが、その後激減し 2003 年には 5 % を切った。これと対照的に 2001 年以降の韓国の伸びは著しく、2002、03 年にそれぞれ 59%、42% の高いシェアを示した。EU と韓国が入れ替わって輸入市場で 1 位の座についた。2003 年には原産国中国(中継貿易)製品の輸入が急増し 9.2% と 4 位のシェアを占めるようになった(輸入額では、この 5 年間に約 3 万 7 千倍と桁違いの伸びとなった)。

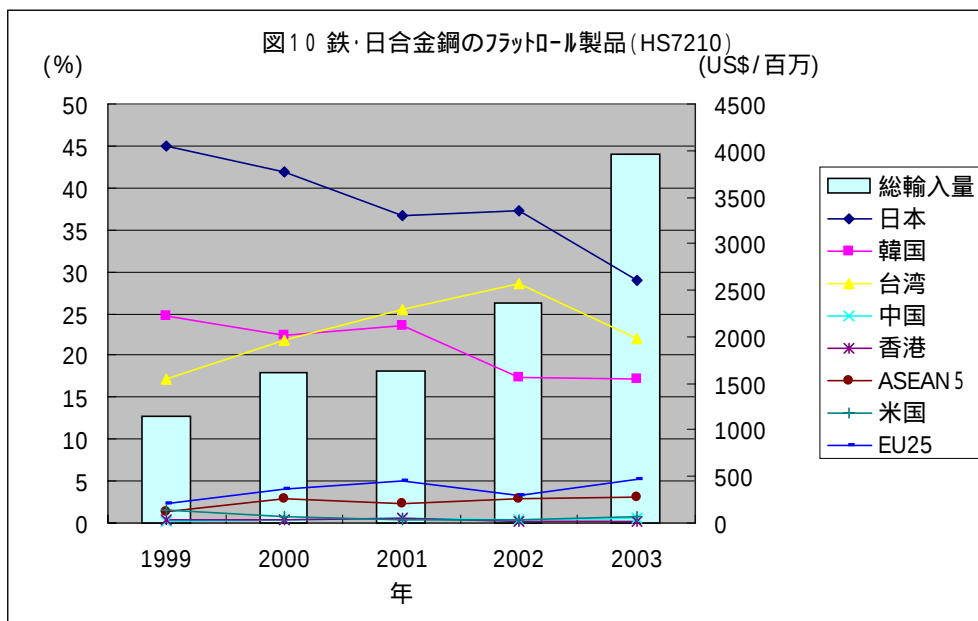


韓国が輸入市場の40%強を占め1位、日本、台湾はほぼ安定的に推移してそれぞれ2位、3位となり、原産地中国のシェアが台湾に迫る勢いで4位となっている。

(10) HS7210 = 「鉄又は非合金鋼のフラットロール製品（クラッドし、メッキし又は被覆したもので、幅が600mm以上のものに限る。）」(図10)

中国のこの品目の輸入はこの間で約3.4倍(11.5億ドルから39.5億ドル)になった。

日本は1999年時に45%と大きなシェアを持ち1位であったが、その後1位は維持するものの減少し2003年には29%までに縮小した。1999年時に2位のシェア(25%)を持っていた韓国も漸減し17%(3位)までになった。一方、台湾は上下変動があるものの20%以上を保っており、日本に次ぎ2位となっている。シェア上位を占める国々で顕著な増大を示したものはない。



日本、韓国、台湾による中国輸出市場獲得競争となっている品目である。

以上、本節では前節における結果、すなわち、日本から中国への輸出金額の大きい品目は「機械類・電気機器等」(第16部)であり、日本の輸出特化度が大きいのは「輸送機械関連」(第17部)であったことを踏まえ、そのような品目において日本が輸出市場としての中国で優位な状況にあるか否かを、HS4桁レベルの関連主要10品目(中国の日本からの輸入額が大きい品目)について、他国の中国輸出額との比較(市場シェア比較)によって吟味した。その結果、次の点が明らかになった。

- (ア) 日中間貿易において日本の輸出が大きい品目であっても、輸出市場としての中国において、日本の輸出競争力は必ずしも絶対的な優位にはなく、複数の国との競合関係にある。中国への輸出額が大きい「機械類・電気類(第16部)」に関連する品目でみると、
- ・「集積回路等(HS8542)」: 日本は、台湾及びアセアン5との競争関係。

- ・「半導体等(HS8541)」: 現在のところ日本の輸出競争力が強く、台湾、アセアン 5、中国が 2 位グループで競争関係。
 - ・「その他の機械類 (HS8479)」: 現在のところ日本それに EU の輸出競争力が強く、米国、台湾、韓国が 2 位グループで競争関係。
 - ・「オフィス機器部分品 (HS8473)」: 原産地中国、アセアン 5、日本、台湾が競争関係。
 - ・「テレビ・ラジオ等の部分品 (HS8529)」: 日本、原産地中国、及び韓国が競争関係にあり、EU がこれに次いでいる状態。
 - ・「送信機器・テレビカメラ・ビデオカメラ (HS8525)」: 韓国が輸入市場の 40% 強を占め 1 位、日本、台湾は 2 位、3 位であり、原産地中国のシェアが台湾に迫る勢いで 4 位となっている。
- (イ) 日本の中国に対する貿易特化指数が大きいのは「輸送機械関連(第 17 部)」であるが、これも EU との競争関係にある。これに関連する品目で輸出額が大きい品目をみると、
- ・「自動車の部分品・アクセサリ (HS8708)」: EU (1 位) と日本 (2 位) で 70% ~ 80% を占める状態であり、韓国がシェアを拡大し漸く 2 桁に載せたところである。日本と EU の競争関係。
 - ・「乗用自動車(HS8703)」: 米国、韓国がそれぞれ数% を占めるものの、日本と EU で 90% 近くあり支配的。日本と EU の競争関係。
- (ウ) 以上の競争関係を中国の調達市場ととらえれば、それぞれの品目の集積国が理解できる。

第 3 節 中国の輸出競争力と日本市場への浸透度

これまで、日本の輸出市場としての中国における輸出競争力の現状を見てきた。一方、日中間貿易において、日本から中国へは機械・電気機器及び化学関係製品に集中しているが、中国から日本へは機械・電気機器や紡績用織

維製品に中心がありつつも、他の品目についても一様に輸出が分布していることが、第 1 節における観察で明らかになっている。

本節では、中国の輸出競争力の観点から、中国の対世界市場で輸出競争力の強い品目が日本市場においても同様であるか否かを概観する。

1．分析ツールとデータ

ここで輸出競争力を計測するツールとして、世界輸出市場におけるシェア、顕示的比較優位（RCA = Revealed Comparative Advantage）指数、および第 1 節において定義した貿易特化係数（TSC）を用いる。ここにおける RCA は次のように定義される。

$$RCA(i) = \{ X(i) / X \} / \{ W(i) / W \}$$

ここで、 $X(i)$ = 中国の i 財の輸出、 X = 中国の輸出総額

$W(i)$ = 世界の i 財の輸出総額、 W = 世界の輸出総額

特に、 $RCA(i) = 1$ のとき、「(中国の輸出総額) に占める (中国の i 財輸出額) シェアが (世界の輸出総額) に占める (世界の i 財の輸出) シェアに等しい」ということ、すなわち (中国の i 財輸出額) は世界平均的水準であると見ることができる。したがって、 $RCA = 1$ を分岐点にして比較優位性を判断することになるが、RCA はゼロ以上という下限はあるが上限は定義上存在しないので、実際は 1 より大きくなる場合が多く、分岐点も 1 より大きく考えるほうが現実的である。

対象とするデータは中国の輸出統計で HS 4 桁レベルの品目に関し、2003 年時点で上位 100 位にランクされるものについて、1999 年から 2003 年までの 5 年間を対象とした。このデータについて、次の 4 項目の計算・整理を行った(表 2)。(この上位 100 品目の輸出合計は輸出総額の 70% にあたる。)

各品目の中国輸出に占める重要度の変化：中国輸出総額に占める抽出された 100 品目の輸出額シェアを各年毎に算出し、観察期間 5 年間の変動をみる。

表2 中国の輸出競争力

2003 年の輸 出順位	HSコード	HSコードに対する内容(簡易化したもの)	中国輸出に 占めるシェ アの上昇度 (*1)	輸出競争力			日本の中 国からの 輸入比 (対世界)	中国 からの 輸入 順位
				世界シェ アの上昇 度(*2)	2003年 時のRCA の大きさ	2003年 時のTSC の大きさ		
1	8471	自動データ処理機、磁気式又は光学式読取機		(19.7%)	○	○	41.6%	1
2	8473	8469～8472の機械に主に使用する部分品又は付属品		(12.2%)			28.0%	1
3	8525	送信機器及びビデオカメラレコーダー		(10.8%)			33.0%	1
4	8529	8525～8528の機器に主として使用する部分品		(14.6%)			43.6%	1
5	6204	女子用衣類	●	(22.2%)	○		80.5%	1
6	8542	集積回路及び超小型組立モノリシックデイトル集積回路	○	(2.8%)	●	●	3.3%	7
7	8521	ビデオ(記録用・再生用)機器		(43.0%)			55.2%	1
8	6110	メリヤス編み又はクロセ編みの羽織物	●	○ (23.7%)	○		86.4%	1
9	9503	玩具、縮尺模型等、及びパズル	●	(32.0%)	○		85.7%	1
10	8504	トランスフォーマー、スタティックコンバーター、インダクター	●	(15.3%)			56.0%	1
11	6403	履き物(甲が革製に限るもの)	●	○ (19.4%)	○		31.7%	1
12	8517	有線電話・電信用の電気機器及びビデオフォン		(10.1%)			29.6%	1
13	4202	バッグ類	●	(29.6%)	○		45.2%	1
14	8516	家庭用電気機器並びに電熱用抵抗体	○	(24.6%)	○		58.3%	1
15	6402	本底と甲がゴム底又はプラスチック製の履き物	●	(47.9%)			86.8%	1
16	9403	家具及び部分品(腰掛け、医療用等備品を除く)	○	(12.4%)			38.8%	1
17	6203	男子用衣類	●	○ (20.4%)	○		79.9%	1
18	3926	その他のプラスチック製品、3901～3914の材料から成る製品	●	(14.5%)		○	49.8%	1
19	4203	革製品又はコンホーションレザー製の衣類及び衣類付属品	○	(53.6%)			50.4%	1
20	8609	コンテナ(液体輸送用のものも含む)	○	(82.1%)			51.3%	1
21	8522	8519～8521までの機器に使用する部品及び付属品		(28.0%)	○		55.9%	1
22	9405	照明器具及びその部品	▲	(26.7%)	○		48.9%	1
23	2710	石油及び原油を除く歴青油並びに含有率70%以上の調整品	○	(2.6%)	▲	▲	2.3%	11
24	8528	テレビ受像機器		(9.7%)			46.3%	1
25	6104	女子用衣類(メリヤス編み又はクロセ編みのもの)		(42.2%)			78.8%	1
26	8527	無線電話・電信用、ラジオあるいはテレビ受信機	●	(19.2%)			36.2%	1
27	9504	遊戯用の物品	○	(25.2%)	○		83.5%	1
28	9013	液晶ディスプレイ、レーザー及びその他光学機器	○	○ (18.1%)		●	37.3%	1
29	5407	合成繊維の長繊維の糸の織物		(20.6%)	○		17.2%	1
30	6109	肌着(メリヤス編み又はクロセ編みのものに限る)	●	○ (17.3%)			80.3%	1
31	8415	エアコンディショナー		(17.6%)		○	58.9%	1
32	9401	腰掛け及びその部分品(医療用等の備品を除く)		(9.9%)		○	25.8%	1
33	2701	石炭、練炭、豆炭その他それに類する石炭製固形燃料	○	○ (13.0%)		○	17.8%	2
34	8544	電気導体及び光ファイバーケーブル		(7.4%)			45.5%	1
35	8901	船舶	▲	○ (7.4%)		○	100.0%	1
36	8518	マイクロフォン及びそのスタンド、拡声器、ヘッドホン等	▲	○ (20.4%)	○	○	40.0%	1
37	5208	綿重量が全重量の85%以上で1㎡につき200以下の綿織物	●	(27.2%)	○	○	69.5%	1
38	8501	電動機及び発電機	▲	○ (11.5%)			45.8%	1
39	8541	半導体デバイス、発光ダイオード及び圧電結晶素子		(6.4%)	▲	●	15.9%	2
40	8708	8701～8705の自動車のものに限る部分品及び付属品	○	(1.5%)	●	▲	10.6%	3
41	8534	プリント基板		(11.9%)		▲	39.8%	1
42	6202	女子用上着	○	○ (43.4%)			86.2%	1
43	9506	運動又は戶外遊戯に使用する物品又はボール		(19.5%)	○		44.8%	1
44	6302	リネン類	●	○ (31.8%)	○		85.7%	1
45	8481	コック、弁その他		(7.7%)			17.0%	2
46	8507	蓄電池(隔離版を含む)		(16.8%)			42.5%	2
47	8467	手持工具、回転工具、チェーンソー等	○	(19.7%)	○		43.9%	2
48	8536	電気回路の開閉用、保護用又は接続用機器	●	(5.1%)	▲	▲	45.9%	1
49	6201	男子用上着	○	(42.0%)			80.5%	1
50	8414	気体圧縮機及びファン並びに換気用又は循環用フード	○	(6.8%)		▲	27.5%	1
51	6103	女子用衣類(メリヤス編み又はクロセ編みのもの)	▲	○ (51.4%)			92.5%	1
52	6205	男子用シャツ	●	○ (22.3%)	○		77.4%	1
53	6211	スポーツ用衣類	▲	○ (31.7%)	○		82.9%	1
54	8509	伝動装置自蔵の家庭用電気機器		(23.0%)	○		66.3%	1
55	7601	アルミニウムの粉及びフレーク	○	○ (7.8%)			9.1%	4
56	1005	とうもろこし	○	○ (16.8%)			6.3%	2
57	9404	寝具その他これに類する物品		(37.1%)			79.4%	1
58	7323	鉄鋼製並びに鉄鋼ウール製の家庭用品	▲	(33.8%)			57.7%	1
59	2704	コークス及び半成コークス、レトルトカーボン	○	○ (49.4%)			99.5%	1
60	7326	その他の鉄鋼製品		(10.0%)		○	49.8%	1
61	3923	プラスチック製運搬用・包装用製品及び栓、フタ、キャップ等	▲	(7.7%)		○	44.3%	1
62	2709	石油及び歴青油(原油に限る)		○ (1.1%)	●	●	1.8%	9

63	6404	履き物	▲	(35.7%)			83.1%	1
64	4011	新品のゴム製の空気タイヤ		(6.0%)	▲		4.0%	10
65	5209	綿織物(5208に属するもの以外)	▲	(18.1%)			24.9%	1
66	6108	女子用インナー及びナイトウェア	▲	○ (25.9%)	○		88.9%	1
67	6006				○			NA
68	8711	モーターサイクル及びサイドカー	○	○ (12.1%)			21.6%	2
69	8712	自転車	▲	○ (44.7%)			85.2%	1
70	8540	熱電子管、例陰極管及び光電管	▲	(10.1%)		▲	16.8%	3
71	7113	身辺用細貨類及びその部分品	●	▲ (6.3%)	▲		4.2%	7
72	9505	祝祭用品や娯楽用品	▲	(41.6%)			88.6%	1
73	3924	プラスチック製食卓、台所その他家庭用及び化粧用品		(23.8%)	○		54.5%	1
74	8519	録音装置自蔵のものをのぞく音声再生機	●	(26.1%)	○		38.4%	1
75	9009	感光式複写機及び感熱式複写機	▲	○ (12.9%)			63.1%	1
76	6802	石材製品		(23.2%)	○		86.5%	1
77	8539	フィラメント電球及び放電管、アーク等		○ (13.4%)		○	14.4%	2
78	5205	綿重量が全重量の85%以上で縫糸・小売用を除く綿糸		(19.3%)		▲	19.2%	3
79	6206	女子用ブラウス、シャツ	●	○ (17.9%)			82.1%	1
80	8714	8711～8713の車両用部分品及び付属品		(14.4%)		○	30.1%	1
81	0304	生鮮あるいは冷凍の魚のフィレその他の魚肉		(14.7%)			24.5%	1
82	6210	5602、5603、58903、5906、5907の織物で作られた衣類	▲	○ (32.0%)	○		90.0%	1
83	7202	フェロアロイ	▲	(16.2%)		○	32.8%	1
84	1605	甲殻類、軟体動物及びその他水棲無脊椎動物		(25.4%)	○		42.7%	1
85	7308	構造物及びその部分品		(8.8%)		○	33.6%	1
86	8532	固定式、可変式又は半固定式のコンデンサー		○ (7.1%)		●	34.3%	1
87	8470	データ記録、再生、表示用のポケットサイズ用機械。		○ (26.5%)	○		75.2%	1
88	8302	卑金属製の錠及び留め金及び留め金つきフレーム	○	(8.0%)		○	37.3%	1
89	9102	貴金属使用のものを除く腕時計、懐中時計、携帯用時計	●	▲ (9.0%)		○	14.9%	2
90	6911	陶磁器製食卓、台所その他家庭用及び化粧用品	▲	○ (39.7%)			21.9%	2
91	8418	冷蔵用又は冷凍用の機器(除エアコンディショナー)		(5.2%)	▲		42.5%	1
92	6307	清掃用の布製品、救命胴衣及び救命帯等		(22.6%)	○		73.4%	1
93	5801	パイル織物及びシェニール織物		(34.5%)		○	24.6%	1
94	3204	有機合成着色料	●	○ (9.7%)			16.9%	2
95	7102	ダイヤモンド(取り付けたものを除く)		(1.7%)	●	▲	0.4%	14
96	9006	映画撮影用を除く写真機、写真用閃光機器及び閃光電球	●	▲ (12.4%)			45.6%	1
97	8531	電気式の音響信号又は可視信号用機器	▲	○ (8.3%)		▲	28.3%	1
98	6115	靴下類(メリヤス編み又はクロセ編みに限る)		(17.3%)		●	79.1%	1
99	9801		○	○ (19.8%)	○	▲		NA
100	8506	一次電池	●	(16.3%)			26.7%	1

World Trade Atlas より筆者作成。(6006と9801は、十分な情報が得られず、NAとした。)

(*1)(*2)における記号は、1999年～2003年の各年の傾向を見たもの。数値はすべて2003年。詳しい凡例は本文3 - 1を参照のこと。

【表2における凡例】

増加トレンド(5年間単調増加)○増加(5年間上下あるが結果として増加)

5年間ほぼ変化なし ▲減少(5年間上下あるが結果として減少)

●減少トレンド(5年間単調減少)

世界輸出市場におけるシェアの上昇度：各品目に関する世界輸出市場におけるシェアを算出し、観察期間5年間の変動をみる。

【表2における凡例】 と同じ。

各品目に関する各年のRCAを計算。分析対象は最近の状態という意味で2003年に関するRCAのみを利用。

【表2における凡例】

5 RCA ○ 3 RCA < 5 1 RCA < 3 ▲ 0.5 RCA < 1 ●

0 RCA < 0.5

各品目に関する各年の TSC を計算（中国の対世界貿易特化係数）。分析対象は最近の状態という意味で 2003 年に関する TSC のみを利用。

【表 2 における凡例】

0.8 TSC 1.0 ○ 0.5 TSC < 0.8 0 TSC < 0.5
▲ - 0.5 TSC < 0 ● - 1 TSC < - 0.5

2. 中国輸出上位 100 品目に関する分析

表 2 に基づき、上の ~ に沿って分析する。最後に 輸出競争力総合判定としてまとめを行う。

各品目の中国輸出に占める重要度の変化

これは品目間の相対的關係であり、ひとつの品目のシェアが大きくなれば、他の品目でシェアを減少させるものが現れる。その点を踏まえた上で、中国の輸出品目としてより重要度を増しているのは、印に着目して 16 品目が挙げられる。その特徴としては、「機械・電気機器関係(HS 第 16 部)」に属する品目がほとんど(11 品目、HS84xx、HS85xx)であり、残りは合成繊維織物やその製品、軽易な加工品、水産品などの一部である。

一方、相対的に重要度を減じてきた品目は、●印に着目して 21 品目が挙げられる。その特徴としては、「紡織用繊維及びその製品(HS 第 11 部)」(8 品目、HS61xx、HS62xx)「履物類(HS 第 12 部)」(4 品目、HS64xx)に属する品目が多く、これらは現在まだ輸出額において上位にあるが重要度は低下傾向にある。加えて玩具(HS95xx)等「雑品(HS 第 20 部)」の一部もこの状況にある。

世界輸出市場におけるシェアの上昇度⁶

これについて 印に着目してみると、100 品目中 65 品目存在する。一方、

⁶ 表 2 において()内の値は、2003 年における世界輸出市場におけるシェアの値。

明確な減少傾向を示す品目(●印)はひとつもない。これは、中国の上位輸出品目のほとんどが世界の輸出拡大以上に伸びていることを示すものである。

で示された中国輸出重要度の減少傾向にある品目でさえ、世界の輸出拡大以上に伸びているのである。また、現時点で 40%以上の世界輸出シェア(世界で独占的シェアになりうる範疇)を持つ品目はビデオ機器、履物、皮革衣服、コンテナ、女子用の衣服、女子用のコート、男子用のコート、男子用の衣服、コークス製品、自転車、祝祭用品の 11 品目であり、ハイテク品目に位置づけられるものは存在しない。

RCA による中国輸出における比較優位品目

RCA が 1 より大きい品目は、原理的には、中国が輸出において(他の品目に比して)比較優位を持つと考えられ、よりそれに特化すべきと示唆される。先に述べたように、RCA が 1 より大というのは経験的には範囲が広すぎるので、表 2 においては 印に着目し、ここでの対象 100 品目から輸出に関し比較優位品目を抽出すると 16 品目となる。具体的には、ビデオ機器(HS8521)、履物(HS64xx)、皮革衣類品(HS4203)、コンテナ(HS8609)、女子用の衣類(HS6104)、女子用のコート類(HS6202)、男子用のコート類(HS6201)等である。一方、比較優位性の低い品目(●印)は、集積回路(HS8542)、自動車の部分品(HS8708)等である。

TSC による対世界輸出特化度の高い品目

輸出特化度の高いと考えられる品目(印)は 100 品目中 48 品目、逆に輸入 > 輸出と考えられる品目(▲及び●印)は 16 品目であり、残りの品目は程度の差こそあれ輸出超過にあることになる。特に、輸入 > 輸出のなかで、輸出額の大きい集積回路、液晶デバイス、半導体などの品目が含まれることは注目に値する。つまり、こうした品目については大きな輸出を上回る輸入があるということである。

以上のまとめとして中国の輸出競争力が非常に強い品目の抽出

「世界シェアが かつ現在 30%以上」かつ「RCA= 」かつ「TSC= 」である品目を輸出競争力が非常に強い品目と考えると、それらはビデオ機器、履物、皮革衣服、コンテナ、女子用の衣服、男子用のコート類、寝具、食卓用品、及び祝祭用品であり、まだ高付加価値品目とはいいいがたいものがほとんどである。

3. 中国の輸出上位品目の日本市場への浸透度

これまでは、中国の輸出上位 100 品目に関し、対世界輸出としての競争力を吟味してきた。ここではこれら 100 品目の日本市場への浸透度を、これまでの結果と日本の各品目の輸入額における中国からの輸入額シェア（表 2 の右端の 2 つの列）を用いて観察する。

第 3 節第 2 項の で見たとおり、対象 100 品目の中国輸出の世界市場におけるシェアで 40%を超えるものは 11 品目であったが、日本市場に占める中国シェアで 40%を超えるものは 57 品目もあり、そのうち 39 品目は 50%を越すものである。したがって、世界市場では大きなシェアを持たない品目でも日本市場への浸透度が高いものが非常に多い。実際、ここでの対象 100 品目に関し、世界市場よりも日本市場への浸透度が高い（各品目についての輸出市場としてのシェア比較）品目数は 87 品目にものぼる。中国の輸出競争力の強さを考えることも重要であるが、日本がかなりの品目に関し中国に依存していることを認識することのほうがより重要であると考えられる。実際対象 100 品目について日本の中国からの輸入シェアのランキングはほとんどが首位である。

まとめにかえて

本章では、東アジアにおける日中間貿易の現状を輸出競争力の観点から質

易統計を用いての数量分析を実施した。その結果を要約すると以下の（１）～（３）となる。

（１）貿易 HS 分類の全商品を 21 項目にまとめた「部」レベルで概観すると、日中間の貿易額が双方向で非常に大きいのが「機械類・電気機器等（第 16 部）」であり日本の出超ではあるが、対中国貿易特化係数(0.24)で見ると輸出力が非常に強い優位とは必ずしもいえない。日本の対中国で輸出力が強いと見られるのは「輸送機械関連」(0.60)のみといえよう。また、中国の日本への依存は機械・電気・化学関係部門に集中しているが、日本の中国への依存はほとんどの部門に及んでおり、多くの部門で中国が高い貿易特化係数の値を示している。

（２）日本の中国への輸出額上位 10 品目(HS 4 桁レベル)について、中国市場における日本の輸出競争力をみると、必ずしも日本が絶対的優位にはなく、複数の国との競合関係にある。例えば、集積回路や半導体、オフィス機器部分品などの IT 関連は、日本は台湾、アセアン 5 あるいは原産地中国との競争関係にあり、テレビ・ラジオ等の部分品では原産地中国、及び韓国と競争関係にある。また、自動車関連分野は EU との競争関係にあり、日本と EU で市場を支配的である。

（３）中国の主要輸出品 100 品目（HS 4 桁）の対世界輸出競争力を世界市場シェア、比較優位分析（RCA 指数分析）及び貿易特化係数により総合的に考察すると、中国の競争力の非常に強い分野は、ビデオ機器、履物、皮革衣服、コンテナ、女子用の衣服、男子用のコート類、寝具、食卓用品、及び祝祭用品であり、まだ高付加価値品目とはいえないものがほとんどである。しかしながら、世界市場では大きなシェアを持たない品目でも日本市場への浸透度が高いものが非常に多く、世界市場よりも日本市場への浸透度が高い品目数は対象 100 品目中 87 品目にものぼり、多くの品目に関し輸入相手国の首位は中国である。

以上から、日本がかなりの品目に関し中国に依存していることを認識することは重要である。日本は対中国輸入品に関して特惠関税を適用しているこ

とがその要素とも考えられるが、中国の輸入が多くの品目において首位を占めている点は、隣国として距離が近いこと(輸送費が比較的低廉)、さらには中国商品が日本市場に受け入れられていることの証左ともいえる。一方、日本の輸出は機械類・電気機器・化学分野に現在のところ集中している状態であり、より多くの分野での中国市場進出をはかる必要があると思われる。また、日本はアセアン5との対中国輸出競合関係が特にIT関連で見られが、中国・アセアンFTAが成立した時にはアセアン5の方が日本よりも対中国輸出にはより有利になる部門も少なくないと考えられる。こうした点は、工程間分業に関するより精緻な分析が必要であるが、日中間の健全な貿易バランスを維持するためにも、日中間の現在の非対称的な貿易構造の要因を解明し貿易自由化について早期の検討が必要であろう。

本研究は、貿易統計のみを用いて日本と中国の輸出競争力に視点を当てながら、両国間の貿易構造に関する現状分析を試みたものであり、将来の貿易構造変化の方向性やさらには投資等を通じた産業構造調整によるダイナミズムについては考察されていない。FTAを考察する目的が対象各国・地域(ひいては世界)の経済厚生をより高めることであるとすれば、こうしたダイナミズム分析が必要であることはいうまでもない。

また貿易統計自体の持つ性質にも十分検討が必要である。本研究に関して、FOBとCIFという記録方式による相違、原産地ルールの輸入統計と仕向け先ルールの輸出統計、中継貿易・再輸出入の取り扱いなどの視点からの再検討を加えることも今後の課題である。

参考文献リスト

< 日本語文献 >

アジアクラブ[2003]『アジアの経済統合』文真堂。

石川幸一[2003]「日中貿易再考」(『季刊 国際貿易と投資』No.57

pp.96 - 101 ）。

浦田秀次郎[2002a] 『日本の FTA 戦略』日本経済新聞社。

——[2002b] 『FTA ガイドブック』日本貿易振興会。

——[2004] 『アジア FTA の時代』日本経済新聞社。

木村福成・丸屋豊二郎・石川幸一[2002] 『東アジア国際分業と中国』。

丸屋豊二郎・石川幸一[2001] 『メイドインチャイナの衝撃』日本貿易振興会。

渡辺利夫[2004] 『東アジア市場統合への道』勁草書房。

< 英語文献リスト >

Tamamura, C.[2002] “ Structural Changes in International Industrial Linkages and Export Competitiveness in the Asia-Pacific Region, ” *ASEAN Economic Bulletin*, Vol.19, No. 1, pp.52-82.